

高齢者の心の健康づくり事業

＝高齢者・介護者の心のゲートキーパー養成＝

(実施期間) 平成 23 年度～平成 25 年度	(基金事業メニュー) 強化モデル事業
(実施経費) 平成 25 年度 200 千円 (200 千円)	(実施主体) 富山県富山市

【事業の背景・必要性・目的】

市全体の自殺者数が減少する中で、60 歳以上の自殺者数は自殺者全体の 4 割を占めている。高齢者は、身体の変化や離別、役割の喪失、孤立などでうつ病にかかりやすいが、認知症との混同などから適切な治療に結びつきにくい。また、介護は家族の身体的・精神的負担となることが多く、介護者は介護負担から抑うつとなり自殺に至る危険性が高い。これらのことから平成 23 年度より高齢者の心の健康づくり事業を開始した。

【地域の特徴・自殺者の動向】

富山市は、富山県のほぼ中央から南東部分までを占め、北には富山湾、東には雄大な立山連峰、西には丘陵・山村地帯が連なり、南は田園風景や森林が広がる豊かな自然に恵まれた都市である。

富山市の自殺者数は、平成 20 年 110 人（男性 81 人、女性 29 人、自殺死亡率 26.4）、平成 21 年 102 人（男性 71 人、女性 31 人、自殺死亡率 24.5）、平成 22 年 92 人（男性 58 人、女性 34 人、自殺死亡率 22.2）平成 23 年 96 人（59 人、女性 37 人、自殺死亡率 23.0）平成 24 年 79 人（男性 49 人、女性 30 人、自殺死亡率 18.7）と推移している。（自殺死亡率：人口 10 万人対）

総人口	年齢 3 区分別人口		
	年少（0～14 歳）	生産（15～64 歳）	老年（65 歳以上）
420,546 人	54,886 人	255,050 人	110,610 人

（平成 25 年 9 月末現在 出典：住民基本台帳年齢別人口）

【事業目標 事業内容】

高齢者及び介護者と日常的に接する機会のある居宅介護支援事業者及びサービス事業者等の職員を対象に、ゲートキーパーの役割を担っていただくため、精神保健福祉等に関する研修会を行うとともに、研修会受講者が所属する事業所に「高齢者にやさしい事業所」として登録していただき、目印となるステッカーを事業所内に掲示していただく。

<研修内容>

- ①精神科医師による講義（60 分）
- ②臨床心理士による傾聴に関する演習（60 分）

参加者には、富山市心のゲートキーパーを証するバッジを配布

【事業実施にあたっての運営体制】

富山市介護支援専門員協会に委託し実施。
講師については、富山市保健所が調整した。

3 早期対応の中心的役割を果たす人材を養成する⑤

【事業の工夫点】

日頃から高齢者及び介護者と日常的に接する機会のある介護支援専門員等を対象にした研修であるため、富山市介護支援専門員協会に事業を委託することで、周知、開催がスムーズに行われた。

居宅介護支援事業所等の職員が参加しやすい時間帯を設定し、勤務時間中だが比較的時間のとりやすい午後1時～3時、勤務時間以外の午後6時半～8時半の2回に分けて、研修を開催した。

テキストは、内閣府作成の「ゲートキーパー養成研修用テキスト」を利用。受講者には、実際にロールプレイしてもらい、対応方法について考えるきっかけとした。ゲートキーパーを示すバッジやステッカーを配布することで、受講者に、心の健康について配慮しながら日々の業務に取り組んでもらうよう意識付けをしている。

精神科医療につなぐ際や困難事例に遭遇した際は、保健所等の機関に相談するよう、研修時に呼びかけると共に、各相談機関の連携が重要であることを伝えている。

【事業成果、今後の課題、その他特筆すべき点】

<研修回数、参加者、高齢者にやさしい事業所数>

	研修回数	参加者	高齢者にやさしい事業所
平成23年度	10回	283名	—
平成24年度	5回	178名	63カ所
平成25年度	2回	85名	31カ所

受講者からは、「相談援助について考えさせられた」「心の健康について意識するきっかけとなった」「今後の相談で、さらに気を配り相手の話を聴いていきたい」等の意見が聞かれ、心のゲートキーパーとしての意識付けができたと思われる。

概ね市内の事業所に研修を実施した状況であり、今後は、研修内容、開催頻度等を見直し、高齢者にやさしい事業所へのフォローアップ等検討する。



(問合せ先) 富山県富山市保健所 保健予防課
TEL:076-428-1152
E-mail:hokenjyoyobo-01@toyama.city.lg.jp
URL : <http://www.city.toyama.toyama.jp/>